

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = 雇用者数回復継続も、伸びは鈍化へ

2020年8月3日

米国はサンベルト地域(米国の北緯37度線以南の地域、フロリダ、テキサス、カリフォルニアの南部、アリゾナなどの州で温暖な気候が特徴)を中心に、新型コロナウイルスの感染拡大が依然としてかなり深刻。テキサス州、フロリダ州などで新型コロナによる死者数が過去最多を更新する状況となっています。米経済への影響も深刻で、30日に発表された米第2四半期GDP速報値は前期比年率で-32.9%と統計を開始した1947年以降で最大のマイナス幅を記録しました。これまでの最悪は1958年第1四半期の-10%、リーマンショックの時でも-8.4%にとどまっていますので、記録的な悪化といえます。

第1四半期も2月後半から広がった感染拡大の影響で-5.0%とマイナス圏を記録しており、いわゆるリセッション(景気後退)となっています。

ロックダウン解除などの影響で、第3四半期以降はプラス圏への回復が見込まれており、米議会予算局(CBO)は第3四半期のGDPは前期比年率+21.5%を見込んでいます。ただ、落ち込み幅が大きいこともあり、20年通年での成長率を-5.6%と見込むなど、米経済はかなり厳しい状況です。

新型コロナウイルスの感染第二波の動きがさらに強まり、ロックダウン再開などが本格化すると、再び経済が大きく落ち込む可能性があるだけに、市場は慎重に状況をみています。

そうした中、今週は米経済動向を見据える上で重要な指標が目白押しとなっています。特に注目は3日の米ISM製造業景気指数、5日の同非製造業景気指数、7日の米雇用統計(いずれも6月)です。

ISM製造業景気指数は4月分が41.5とリーマンショック時以来11年ぶりの低水準に落ち込みましたが、その後2カ月連続で回復し、前回6月分は予想の49.5を超える52.6を記録。好悪判断の境である50も上回る好結果となりました。5月からの9.5ポイントの上昇は、1980年8月以来の大幅上昇となります。

内訳をみますと新規受注が56.4と5月から24.6ポイントの大幅上昇。1948年に同統計が開始して以来最大の上げ幅を記録しました。生産も57.3と5月から24.1ポイントの大幅上昇となりました。雇用も5月から10ポイントの大幅上昇となりましたが、水準的には42.1と好悪判断の境である50がまだ遠く、これまでの雇用市場の厳しい状況が意識されました。

なお、2カ月連続で低下することで、逆に好印象を与えたのが入荷遅延です。通常は好況期に多忙から配送が遅延することで、遅延指数が高いことが良い数字となっていますが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて物流が滞っていることによる遅延が発生しており、各指数が軒並み低い数字となった4月に76.0まで大きく上昇しました。この二カ月の大幅低下で56.9まで下がっており、物流正常化への期待につながっています。

ISM非製造業景気指数も4月に41.8まで落ち込んでいましたが、2カ月連続の改善で、前回6月分は予想の50.2を大幅に超える57.1の好結果を記録しました。5月の45.4から11.7ポイントの上昇幅は統計開始以来最大となります。

製造業同様に新規受注の伸びが激しく、61.6と5月から19.7ポイントの上昇。景況感も66.0と5月から25ポイントも伸びています。雇用は5月から11.3ポイントの大幅上昇も、43.1と製造業同様に50がまだ遠いという状況です。

こうした状況を見ると、現状でまだ回復途上なのが雇用。その他部門に関しては、

いったんは新型コロナ懸念が一服しており、今後への期待が広がるという印象でした。

ただ、その後新型コロナウイルスの感染第二波への懸念が強まる中で、今回の予想が気になるところ。製造業の予想は53.6と前回から若干の上層も、非製造業は55.0と前回から鈍化が見込まれています。ただ、非製造業に関しては前回が上がりすぎという面があり、製造業・非製造業ともに50をしっかりと超える水準が見込まれているだけに、予想前後であれば米景気回復への期待は継続といったところになりそうです。

そうした中、ISMでもやや厳しい状況が残る雇用統計への注目が集まります。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、3月から大きく落ち込んだ非農業部門雇用者数(NFP)は、4月に前代未聞の2078.7万人減(確報値、速報時点では2053.7万人)を記録しました。ただ、経済への悪影響のピークは4月中ではとの見方が強いこともあり、5月は269.9万人の大幅増(改定値)、6月は480万人増とさらに雇用者が増加しています。ただ、3月・4月の雇用者の減少は計2216万人に及んでおり、5月と6月を足しても約1/3の回復といったところ。まだ厳しい状況が続いています。

なお4月に14.7%まで悪化した失業率は、2カ月連続で改善を示しましたが、前回11.1%までの改善にとどまっており、まだかなり高め水準です。

こうした状況を受けて今回の雇用統計ですが、非農業部門雇用者数は163.5万人増、失業率は10.5%への改善が見込まれています。

大きな改善ではありますが、ペースはかなり鈍ってきたという印象。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、飲食店や小売店などを中心に倒産した会社も目立ち、雇用が戻り切っていないこと。ロサンゼルスやフェニックスなど人口の多い都市を抱えるサンベルト地区での新型コロナウイルスの感染拡大第2波の勢いが強く、大規模店舗の再開などへの警戒感が見られることなどが背景にあります。

今回のロックダウンで雇用的には最も影響を受けたのが、新型コロナウイルスの感染拡大前の1230万人から623万人までと、雇用者数が約半減したレストラン・バーなどの飲食店部門。ロックダウン緩和でこの2カ月で917万人と以前の雇用者数の約4分の3程度までは雇用が回復してきており、直近の雇用者数回復を支える分野となっています。しかし、カリフォルニア州で13日、州内全域でレストランの屋内営業を再び禁止。サンベルト以外でも、NY市では屋内営業の再開を延期するなど厳しい状況が見られ、思ったほどの回復が進まないという懸念があります。

週間ベースの新規失業保険申請件数がここに来て2週連続で増加し、30日発表の7月19日-25日分は143.4万件と5週ぶりの高い水準となりました。こうした状況を考えると、雇用統計の予想程度の伸び鈍化は十分にありそう。それ以上に雇用の伸びが鈍化しているケースも十分にありそうです。

雇用の厳しい状況は米FRBによる緩和政策の長期化期待などにつながり、ドル売りが広がる可能性があるだけに、要注意です。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。